

カーペット（繊維系床材）のメンテナンスレポート

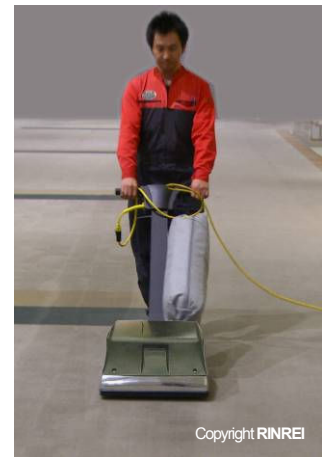
クリーニング方式編 カーペットの洗浄クリーニングとメンテナンスポイント

各洗浄方式における事前バキュームについて



【作業工程】

- 1) 粗ゴミを回収する。
- 2) 作業エリアのパイルが潰れている方向を確認
- 3) アップライトバキュームで、洗浄するエリアをバキュームする。



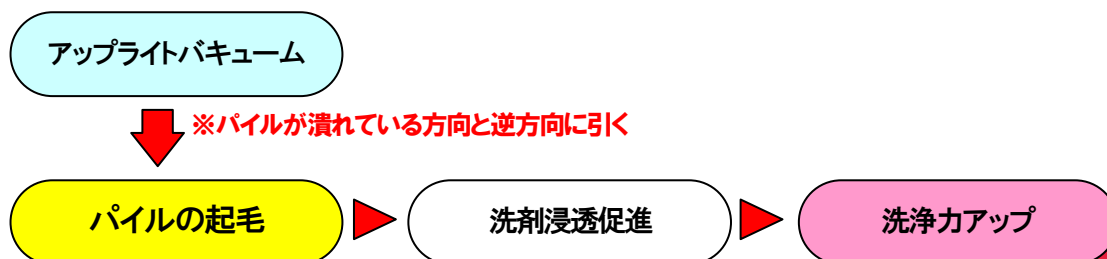
ウィックバックを防止する事、洗浄効果を向上させる事を目的に行う。
 洗剤を使用するクリーニング作業前にバキュームを行うもう一つの理由が、パイルを起毛させる事であるため、使用するバキュームは必ずアップライト型バキュームを使用する必要がある。

洗剤の浸透を早め、洗浄効果をUPさせるために、パイルを起毛する

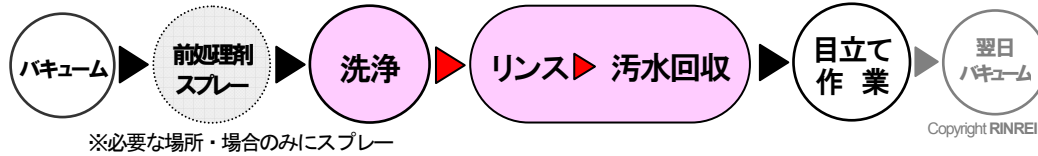
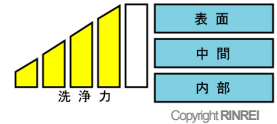
パイルが潰れたままの状態でも洗浄を行っても、表面的な汚れを除去するだけで、パイル内部の洗浄・除去は行えないので、洗浄前のパイル起毛は必須の作業になる。
 洗浄前に行うバキューム作業は、パイルの潰れた方向と逆の方向にバキュームを行う必要があるため、**洗浄前に実施するバキュームは、必ずアップライトバキュームを使用し、バキュームを行う前にパイルの潰れている方向を確認した上で、潰れている方向とは逆の方向に、ゆっくりとバキュームを引きながらバキュームを掛ける必要がある。**



アップライトバキュームを使用したバキューム作業の方向



6 2ステップ方式



作業効率: 100 m²/1時間・1名
 使用洗剤: アルカリ発泡性クリーナー
 ※前処理剤はプレスブレードクリーナー
 使用機材: ・ポリッシャー、ブラシ
 ・エクストラクター
 ・目立てブラシ、(スプレーヤー)

- [長所]
- 汚れの激しい所に適した方式で、パイル内部の汚れも除去する事ができる。
 - 洗剤の残留が少なく、再汚染されにくい状態で仕上がる。
 - 広いスペースもムラなく均一に仕上げることが可能。

- [短所]
- 強い研磨力によりカーペットパイルが傷みやすくなる。
 - 2工程になることで、作業員数、使用する機械が多くなる。
 - 水の多量使用により乾燥時間が長くなり、織りカーペットでは縮みを起こし易くなる。

(メンテナンスポイント)

作業を始める前に、カーペットの施工方法を確認し、グリッパー工法などカーペットが縮んだ際に問題のある施工かどうかを確認し、必要に応じて釘打ちなどの対策を取ります。

洗浄力の高いアルカリ洗剤を使用して、シャンピングポリッシャーで洗浄した後、リンサーを用いてすすぎ、汚水回収を行う洗浄方式です。 ※アルカリ洗剤はウールなど天然素材には使用できません

作業前に汚れの多い箇所はプレスブレード液を予め噴霧器などでスプレーしておくことが重要です。

また、汚油脂汚れや汚れの激しい場所では洗剤を50℃程度の温水で希釈して洗浄を行うと効果的です。

歩行量が多くパイルが潰れたエリアは、ポリッシャーでクロス洗浄し、パイルを起こしながら洗浄を行う必要があります。

洗浄作業終了後、目立てブラシを用いてパイルの目立てを行っておくことで、乾燥を早める効果があります。

洗浄適性一覧	カットパイル		ループパイル		カット&ループ	
	毛足短い ヘアア等	毛足長い サキノニー等	高低差あり H/Lループ等	レベルループ	ハイカット ロールアップ	レベルカット レベルループ
アキスミンスター	●	×	/	/	●	○
ウルトン	●	×	/	/	●	○
タフテッド	●	▲	●	○	●	○
タイルカーペット	●	▲	●	○	●	○
コードカーペット	/	/	/	○	/	/
電着(人工芝など)	●	▲	/	/	/	/
ニードルパンチ※	○ パイルの無いカーペット					

Copyright RINREI

○:適している ●:適するが制約あり ▲:あまり適していない ×:適用不可

